

2023 年度 小委員会活動成果報告

(2024 年 2 月 14 日作成)

小委員会名	強震観測小委員会	主 査 名：三浦弘之 就任年月：2023 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 (振動運営委員会)	委員長名：五十田博 (主 査 名：菊地 優)
設 置 期 間	2023 年 4 月 ～ 2027 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>地震工学、耐震、防災分野の機関、技術者、研究者等の協働により、強震観測とその利用に関する研究と技術開発を推進し、あるいはそのための環境整備を通して、建築物・都市の地震災害軽減に資することを目的とする。具体的には、以下の諸点を中心に実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・強震観測の実施、データの収集・整理、分析、および被害把握・災害対応への応用に関する検討 ・観測記録に基づく建物・地盤の地震応答に関する現象解明 ・上記を推進するための環境整備、資料収集整備、普及啓発 <p>初年度：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各地域の強震観測、研究に関する情報交換 ・強震観測体制、データ収集、利用方法などに関する現状分析 ・強震観測アーカイブの拡充・更新方法の策定 (WG と協働で実施) ・近年の被害地震で得られた強震観測情報の調査 ・強震観測成果をより有効に活用する方法の調査検討 <p>2～4 年度：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各地域の強震観測、研究に関する情報交換 ・強震観測データの分析による建物・地盤の地震応答の解明 ・強震観測アーカイブの拡充・更新 (WG と協働で実施) ・近年の被害地震で得られた強震観測情報の整理・公表 ・強震観測成果をより有効に活用する方法の整理・具体化 ・大会 PD(2025 年度予定)及びシンポジウム(2026 年度予定)を通じた成果の展開 	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無	
	主査：三浦弘之 (広島大学) 幹事：重藤迪子 (九州大学), 徳光亮一 (大成建設) 委員：赤澤隆士 (GRI 財団), 大野 晋 (東北大学), 小笠原さおり (小堀鐸二研究所), 神原 浩 (清水建設), 鈴木 亘 (防災科学技術研究所), 高井伸雄 (北海道大学), 飛田 潤 (名古屋大学), 中川博人 (建築研究所), 長嶋史明 (京都大学), 涌井将貴 (新潟工科大学)	
設置 WG (WG 名：目的)	強震観測データ利活用検討 WG： 近年の地震被害を踏まえ、これまでの活動成果をもとに構築・整備を進めている「強震観測アーカイブ」の拡充・更新と強震観測成果の活用について調査し、建築技術者・研究者および学生・一般等に向けた普及活動を行う。	
2023 年度予算	130,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： http://wiki.arch.ues.tmu.ac.jp/smo_aij/

項 目	自己評価
委員会開催数	4 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	—
講習会	—
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会承認企画	—

大会研究集会	—
対外的意見表明・パブリックコメント等	—
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 委員会内の話題提供を通して、近年の強震観測データとその分析・利活用方法について、委員会内で情報交換し、最新の知見を共有できた。特に、2024年1月1日に発生した能登半島地震で得られた強震データについても情報収集を行い、大振幅の強震データを用いた分析、被害把握、災害対応等に関して、次年度以降の研究課題を共有した。 2. これまでに整理してきた強震観測アーカイブ（台帳）について、当該年度の研究成果を参照して、最新のものに更新し委員会内で共有した。 3. 委員会と別に開催した有志による勉強会を通して、最新の強震観測機器に関する情報交換を行った。
委員会活動の問題点・課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 特になし